

事例発表 I

高齢者の相互支援活動と行政サービスの融合

築上町老人クラブ連合会

副会長 山田 久

紺碧の西の空へ航空自衛隊築城基地のジェット戦闘機が、轟音とともに訓練飛行へと飛び立っていく。

「空の守りは頼んだよ」と、そしてふと我に戻りますと、後期高齢者を過ぎ 78 歳という老人生活。

そのような中での築上老連 25 支部（女性会員 655 名、男性会員 449 名、計 1,104 名が活動している）と元気な姿が在ります。

築上老連は、昨年度統合（椎田町、築上町）2 年目を頑張っているところです。

(1) 私の老人会及び自治会

私が定年退職した平成 26 年、町役場企画より自治会長の依頼があり、やっと定年退職したのでゆっくりするかと思っていた矢先のこと、自治会なんて私にはできないとお断りしました。

しかし、何回も依頼があったみたいで、役場職員がやって来て仕方なく受けてしまったのです。妻も「もう一度、町の発展の為に頑張ってみたら」と言います。

そして、平成 26 年 6 月から自治会の仕事を受けたのが始まりで、同年 7 月に老人会がない地区の為に老人会を立ち上げ、30 名、30 世帯からの始まりでした。

しかしながら、時は流れ早 10 年の歳月がたち、現在の南別府老人クラブは会員数が 19 名（転居 7 名、施設入所 1 名、死去 2 名）へと減りました。

今後の対策は、少人数での近隣老人会への加入です。

(2) 一線(個人情報)を越えなければならない支援活動

私の地域は、築上町の管理集合住宅(築上町都市政策課)です。そして、支援活動の大変さ、難しさがあります。

例えば、見守り活動の中での一人暮らし家庭が多く、事案が発生すれば、連絡先すらわからない一人暮らし家庭、そんな中一線(個人情報)を越え家族構成や、緊急連絡先を調査しなければならない難しい大変さがありました。

やっとの思いで、個人情報たる難関を越えて、一冊の台帳ができました。

(3) 地域の役割を担う今後の老人会の在り方

(4) 高齢者在宅福祉サービスについて